

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790400428		
法人名	(株) ニチイ学館		
事業所名	ニチイのほほえみいわき小名浜 (かつお)		
所在地	福島県いわき市小名浜岡小名字仏玄前3-1		
自己評価作成日	平成22年6月15日	評価結果市町村受理日	平成22年10月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成22年8月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人と人との関わりを大切にし、思いやりの介護を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 法人主体の職員研修プログラムが確立されており、計画的に実施することでレベルアップを図っている。マニュアル類も各分野で充実している。
2. 職員は家族や利用者から人生の先輩として学ぶ意識を持ち、意向を尊重し、より良いサービス提供が出来るよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で、一人ひとりが安心して自分らしく暮らせる生活をホーム理念と位置づけ、全スタッフで実践している。	法人理念とホーム理念を玄関入り口壁面と事務所壁面に掲示し、全職員でミーティング時に唱和・共有することで、自分らしく暮らせる支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内の清掃活動に参加し、道すがらの挨拶にも声をかけて頂いている。	地区内の活動(清掃・お祭り等)に参加しているが、地域と事業所との継続交流までには至っていない。職員は、散歩の際、意識して近所の方々と接点を繋ぐ努力をしている。	町内会の行事にとらわれず日常的外出の際の会話やホーム紙の配布で理解を求めたり、また、ホーム開放会を開催して近所の方との触れ合いの場を活かして欲しい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生の体験学習を受け入れ、高齢者との関わりを持ってもらい、グループホームの存在を理解してもらえるよう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、4月には消防士の方に、講話して頂き日常生活に生かしている。	運営推進会議は定期的に行っているが、会議メンバーである家族代表や地域の方の参加が少ない。	地域密着型サービス事業所の理解と協力を得るために、会議の内容を、継続的交流に活かしたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何か問題があれば、支店を通じて協力を得ている。	行政への利用状況報告の際、担当窓口へ報告や相談をするなど協力関係が保てるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、行っていない。身体拘束委員会で、何が拘束になるのかをマニュアルをどうして勉強しお客様の対応をしている。	身体拘束廃止委員会を立ち上げ、生活面のあらゆる場面において、その都度、勉強会を開き修得している。職員間の見守りと連携で、日中玄関は開放している。出て行こうとする方には、さり気なく距離をおいてつき、見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の意味と通報義務があることを踏まえながら、変化がないかを配っている。高齢者虐待防止法の研修をスタッフ全員でおこなった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	2名の方が成年後見人制度を受けられている。1回/月の話し合いの場に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	内容に変化がある場合は、家族会を開催し説明をしたうえで、ご同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族の来訪時には、必ずお客様の様子を報告しながら、御家族の要望を受け、実践対応している。	面会時の来所者メモの備考欄に意見や要望等を記入していただいたり、電話で受付対応したりしている。出された意見などは運営推進会議の中やミーティングで検討し反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	一例として、食材の受注に関してスタッフの意見や提案を基に受注先との連携がとれている。	月1度の業務ミーティングや日々の業務の中で管理者は職員が意見や提案を言いやすい雰囲気作りをし、聞き取った職員の意見等を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内のスキルアップ制度があり、各自が向上心を持って働けるよう、職場環境整備が整っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修に出席している。法人内のテクニカル研修は、ほとんどのスタッフが受けている。今年度、認知症介護実践者研修を3名が受講する予定。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、支部の研修や管理者会議等に参加して交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴することで、すぐ対応できることもあるが、難しい時は御家族に相談しながら対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会に来られた際に、ホームでの様子を話し、安心して頂ける様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お客様の状況観察のもと現状を御家族に報告しながら対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様の感情の変化を捉え、お客様の意志を尊重し、問いかけ、ご本人が納得できる様対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会、レクレーションの場を利用し、お客様と御家族と一緒に過ごされる時間を作るよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室へ、1回/月程度、送迎込みで外出されている。	馴染みの関係が保てるよう、家族の協力で外出・外泊できる環境を整えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士で居室ですごされているし、2ユニット合同での催し物で交流ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたお客様の入所先を訪問し、様子を伺ったり、退去された方の御家族より、相談を受けたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様が発言された言葉をそのままプランに記録している。	職員は、日頃から利用者の希望を聞き、記録に残している。また、意思疎通が困難な方の場合は、家族の情報提供を下に検討している。身なりにスカーフやアクセサリーをつける等、おしゃれを楽しむ支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族から、情報を頂きセンター方式に記録している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別ケアを行っており、お客様それぞれの捉え方に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議において、課題に向き合い支援の方法を話し合っている。	家族や本人の意向を汲み取った利用者本位の介護計画が作成されている。状況変化に対してはモニタリングを基に現状に即した介護計画の見直しを職員全員で取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援シートに沿って記録し、情報を共有しながら話し合い介護計画に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	提携医療機関外であっても御家族対応が困難な場合または御家族より依頼があった場合、柔軟な姿勢で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	時折、ボランティアの方にお出で頂き2ユニット合同で楽しんで頂いている。すばらしい笑顔を発見することができる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどのお客様が往診対応となっており、数人のお客様もかかりつけ医となっている。	利用者のかかりつけ医の受診を支援しており、それぞれのかかりつけ医及び協力医療機関から往診がある。通院には家族の同行を基本としているが、場合によっては管理者が同行し、結果を家族に報告し情報の共有をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制をとっており、お客様の変化または、緊急時の対応ができるようになった。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時において、ご本人、御家族、医師との連携をとり、早期入院、早期退院に繋がる関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制と共に、重度化した場合における対応に係る指針について、御家族に説明を行い同意を得ている。	重度化した場合の対応については、利用当初から利用者・家族に説明しており、日常の健康管理の情報は必ず主治医に報告し情報の共有をしている。現在までまだ看取りの実績はないが、利用者が安心して最期を迎えられる体制づくりに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って行う事はできるが、定期的な訓練や実践力については、努力目標とする。普通救命講習を推進している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	総合避難訓練を行い、物を使用しての訓練を行った。区長様との連携がとれている。	消防署立会いの下、年2回総合避難訓練を実施している。また、元消防署勤務の運営推進委員から指導助言等があり、防災委員会が中心となり、毎月災害対策について検討会議をしている。	全職員が災害時に確実に避難誘導ができるようあらゆる場面を想定して、避難訓練を数多く実施されることが望まれる。また、訓練時には近隣住民に呼びかけ、参加協力を依頼されてはどうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、人格を尊重して名前をさん付けで呼び誇りや、プライバシーを損ねない対応をしている。	トイレ等の誘導にはさりげない言葉かけで対応している。全職員が利用者のプライバシーに配慮した支援に努めており、職員間では日常的に確認と改善に向け取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフ側の決定を避け、本人の希望が引き出せるような問いかけの声かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様の体調、様子を見極め、お客様のペースに沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を自ら選んでいただく等その人らしい身だしなみができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	安全に留意したなかで作業を共に行い、スタッフと共に食事をし、会話を広げ楽しい食事になるよう支援している。	職員も一緒に食卓を囲み、全員で食事を楽しんでいる。食事の準備や後片付け等も利用者ができることを職員と共に行なっている。献立は利用者の希望を聞き作成している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量を記録し、必要量が確保されている。お客様の状態に応じて食事量の設定がされている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの声かけ、案内の実施を行っている。義歯の洗浄、ポリデント対応、うがい、口腔ケアウエット、その方に合った支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パット、リハビリパンツ使用者もトイレの声かけを実施し、便座に座り自力排泄が出来るよう支援をおこなっている。	利用者の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄支援を行っている。排泄自立に向けた支援の結果、オムツから綿パンに改善した例もあり、ほとんどがオムツ、パット使用の軽減に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ビフィーネ、LG21、健茶王、等を提供し排便コントロールに取り組んでいる。また、廊下等を歩くなど適度な運動を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声かけにて個々の希望、タイミングに合わせた入浴を実施している。	入浴は利用者の希望により支援している。毎日入浴を希望する利用者や入浴拒否する利用者もいるが、全職員が臨機応変に利用者本位の支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンを理解することでリネン交換や、布団干しを定期的に行い清潔な寝具を準備し気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬のないよう、ダブルチェックを行い飲み込むまでの確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き、洗濯物のたたみ、個々にあった役割を作り、押し付けのないよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御家族との連携により、外出ができるよう支援している。また、近所をスタッフと共に散歩に出掛ける支援を多くできるように努力している。	近くの公園への散歩等利用者の状態を見ながら支援している。また、家族の協力を得て、買物や外食、外泊等数多く外出している。事業所としては、バス等での小旅行(花見等)を企画し実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い制度になっており、いつでも使用できるようにになっている。各、金銭出納帳があり、各名前入りの財布を金庫に保管している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持しているお客様も自由に電話をされている。御家族より電話があった場合は、子機を居室に持参している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じる飾りつけをしている。	共用空間は広く、快適なリビングとなっている。また、和室では利用者が脚を伸ばしたり、寝転んだりして自由に過ごせるようになっている。テーブルも季節や行事によって配置換えし気分転換を図っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室とホール共に自由に利用されている。ウッドデッキに自由に出て菜園を眺めることができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	使い慣れたものを持ち込み、それぞれが個性的な居室となっていて安心して過ごせるよう工夫している。	利用者の多くは馴染みの家具等を持ち込み、その人らしく思い思いのもので飾り、安心して暮らせるように支援されている。また、利用者の状態に合わせて居室作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室やトイレの表示がしてある。手作りの日めくりカレンダーを使用している。		